

学びや

タイムスリップ

京都に初めて小学校が開校したのは1869(明治2)年のことです。そして翌年の1月15日には、現在の始業式に当たる稽古始めの式が執り行

われました。

た。

ントです。

まず、上京第二十七番組小学校であった柳池校と下京第十四番組小学校の修徳校で式が行われ、上京には権大参事であった馬場氏就、下京には同じく権大参事の榎村直正が出席し、それぞれに上京の代表が集まりました。

内容は、町役心得条目の式で拝礼された聖像とは、菅原道真と孔子を対にした二学神の掛け軸でした。稽古始めでの二学神像への拝礼は、1870(明治3)年から数年続きましたが、そこで使われた軸が多くの学校に現存しています。

江戸時代の教育継承 示す



中島有章「大聖文宣王・天満大自在天神」
(1875年、元本能校所蔵)



本能小学校(中京区)に所蔵されていた「大聖文宣王・天満大自在天神」=写真は、1875(明治8)年に制作された作品で、円山派の画家中島有章が手がけたものです。色鮮やかに表された菅原道真と孔子が謹厳な表情で描かれており、威容を誇っています。140年前に描かれたものでありながら非常にきれいな状態で残っており、学校で大切に保管されてきたことが分かります。

今回紹介した「大聖文宣王・天満大自在天神」は学校歴史博物館(下京区)の企画展「日本画開拓の時代―明治を生きた京の画家―」で28日から展示します。

学芸員 森光彦

